

2023年12月期 第3四半期 決算説明資料

2023年11月
サンデン株式会社

目次

成長に向けた活動の進捗

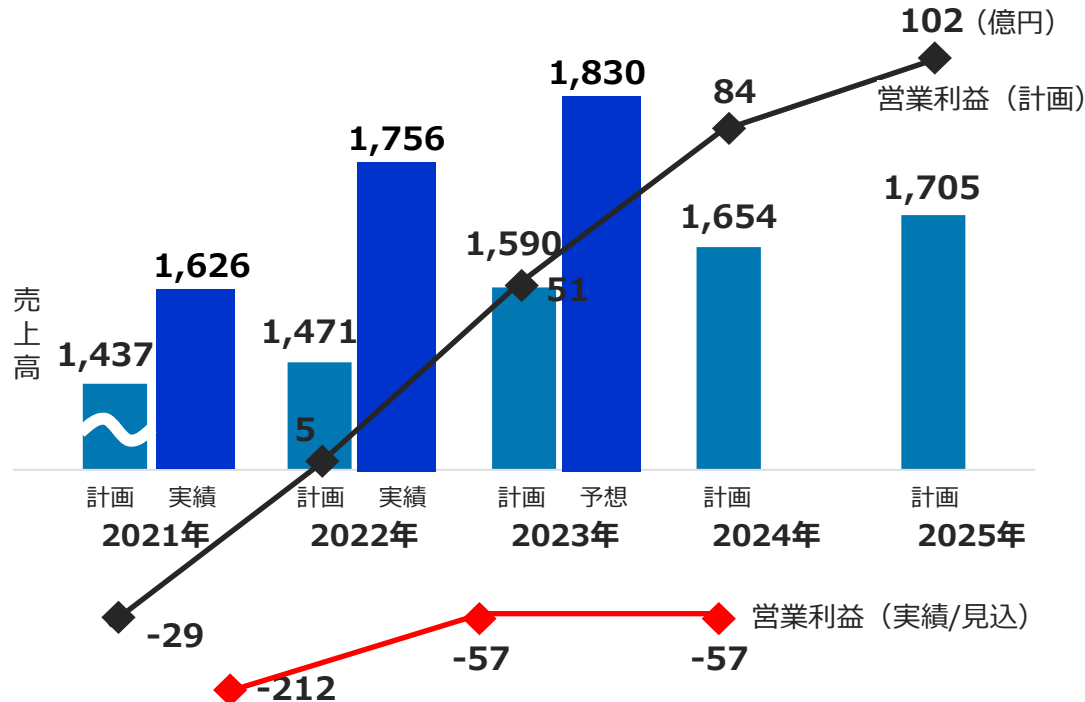
1. 事業再生計画の進捗
2. 成長に向けた好循環サイクルの実現
3. 主要新規案件獲得に伴う生産対応
4. 技術開発 将来成長に向けた取り組み
5. 品質強化活動
6. サステナブルな社会の実現に対する取り組み

2023年 12月期 第3四半期 決算実績

1. 決算のポイント
2. 連結決算要約
3. 自動車機器セグメント地域別売上高
4. 営業利益増減分析（前年差異）
5. キャッシュフロー（前年差異）
6. 連結貸借対照表（前年差異）

1. 事業再生計画の進捗

電動車両の多様化が進み電動コンプレッサーの需要増など、売上高は再生計画を上回り伸長しています。想定を上回る将来ビジネスの獲得にともない、成長戦略投資を増加させています。



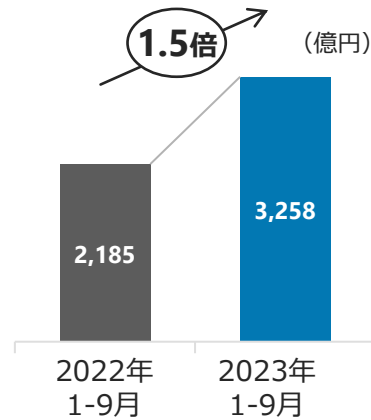
計画期間 : 2026年3月31日まで

※2021年6月25日開催の第95期定時株主総会における定款一部変更の決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。そのため計画は4月から3月の12ヶ月、実績は1月から12月を表しています。

2. 成長に向けた好循環サイクルの実現

将来新規商権獲得

※獲得した商権の生涯売上の合計（案件ごとに量産開始から生涯にわたって得られる売上高の総額）



◆各エリアの新規商権獲得状況

欧州 プレミアム顧客から次世代BEV車両向けECHビジネスを獲得
乗用車主要メーカーから、HVACビジネスを受注（当社過去最大規模）

米州 主要電動車メーカーより電動コンプの追加受注

中国 主要建機メーカーよりITMS案件獲得

日本 主要顧客からエアコンシステム大型案件獲得

アジア 大手現地メーカーの電動コンプレッサ受注

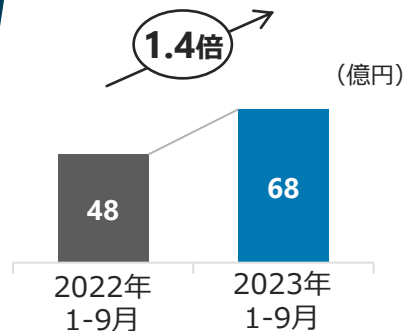
※主要獲得製品：電動コンプレッサ、ECH、HVAC、ITMS、メカニカルコンプレッサなど

ECH：Electric Coolant Heater 水加熱ヒーター

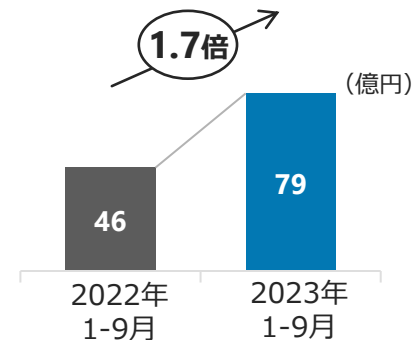
HVAC：Heating, Ventilation and Air Conditioning

ITMS：Integrated Thermal Management System 統合熱マネジメントシステム

成長投資費用

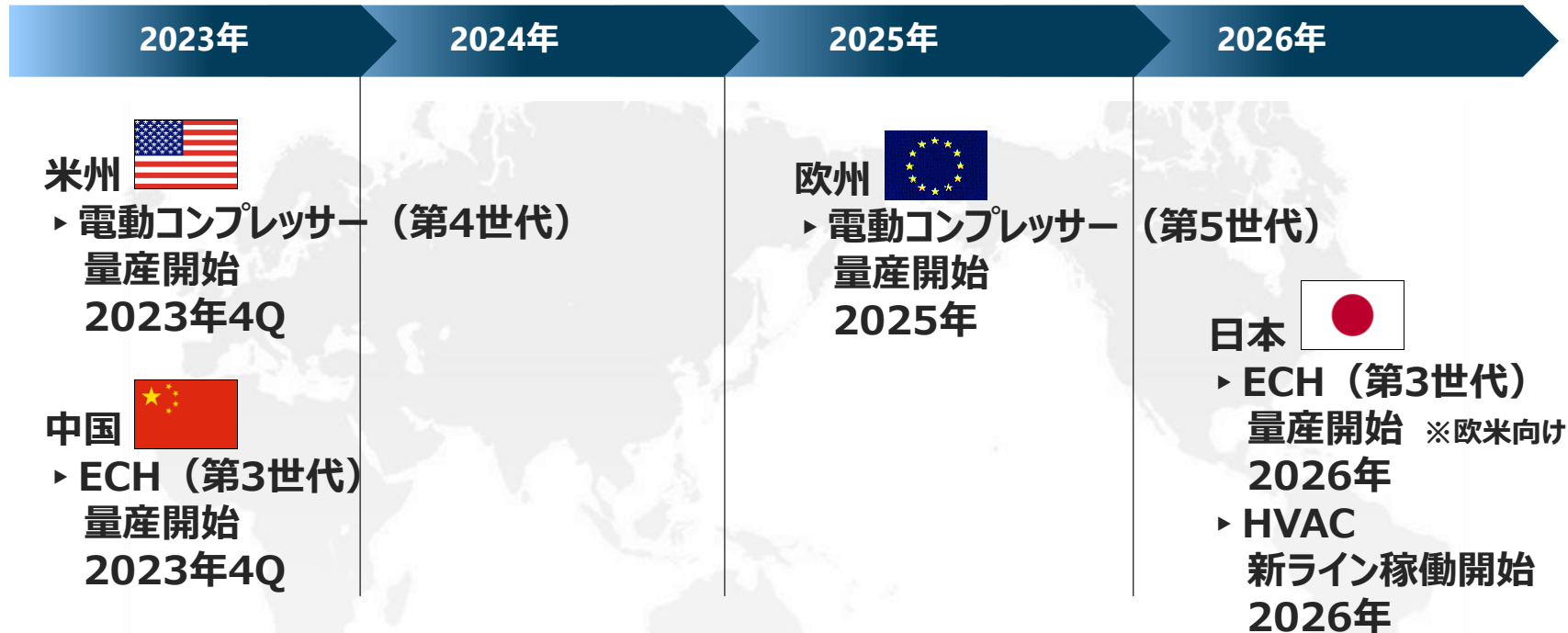


有形固定資産取得による支出



3. 主要な新規案件獲得に伴う生産対応

新規商権獲得拡大に伴い、グローバルで生産体制の準備・強化を進めています



※ECH : Electric Coolant Heater 水加熱ヒーター
※HVAC : Heating, Ventilation and Air Conditioning

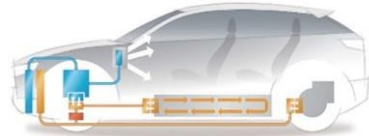
4. 技術開発 将来成長に向けた取り組み

■ ITMS (Integrated thermal management system) の進化

ITMSは、空調による車室内の快適性はもちろんのこと、低炭素社会の実現に向けて貢献します。

- ① 車両航続距離の延長
- ② バッテリー、e-Axleなどの部品保全、劣化抑制

ITMS2.0

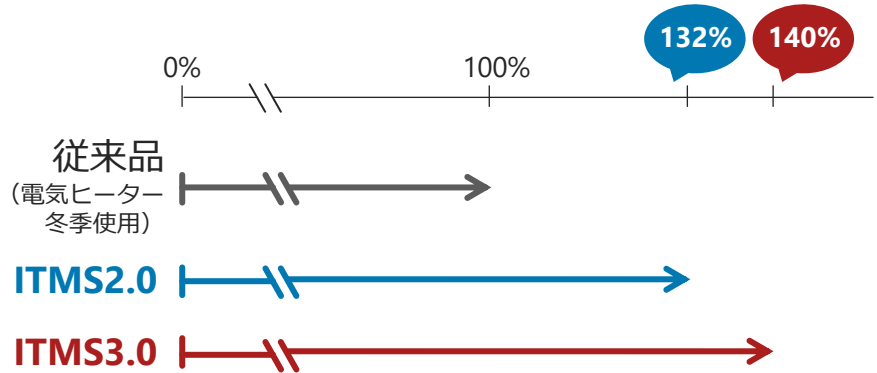


ITMS2.0は**ダイレクト方式**と呼んでおり、冷媒を直接エアコンユニットに入れています。応答性が良く、早く冷やしたり温めたりすることが可能です。

ITMS3.0



ITMS3.0は**インダイレクト方式**で、**環境規制のPFAS対応**となるプロパンガスを冷媒とするシステムの場合、冷媒量を極力少なくすることができます。



(参考) Japan Mobility Show2023に出展

Create
THE FUTURE SCENES

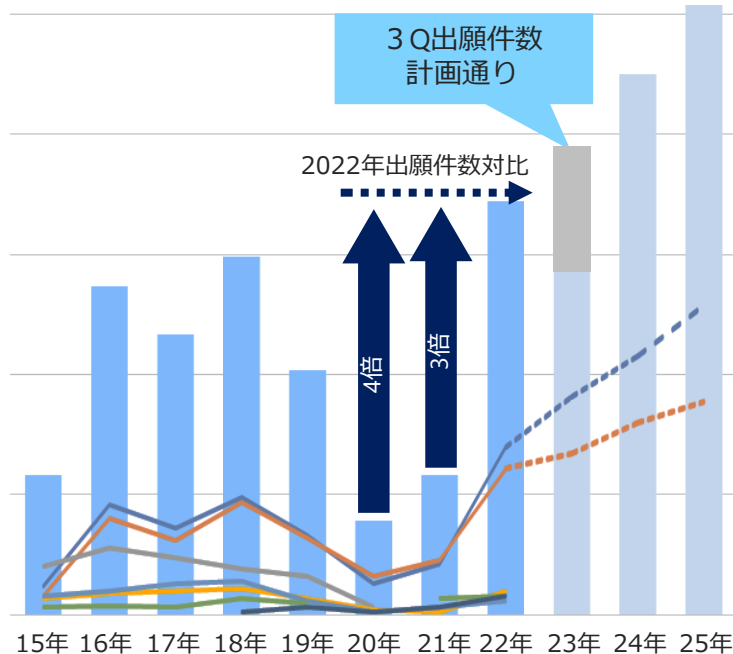
東京ビッグサイトにて開催された「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」に「Create THE FUTURE SCENES」をコンセプトに出展しました。



4. 技術開発 将来成長に向けた取り組み

■ 特許出願件数推移

■ Total — 空調システム — EC — MC — 熱交換器
— その他 — HVAC — ECH — 建機 — User interface



➤ **CY23 1-9月も継続して出願実施。**
計画通り進捗（計画進捗率75%の出願実績）

➤ **CY22出願件数増加率：**
CY20比4倍(441%)
CY21比3倍(297%)

➤ **今後の成長の軸となる**
空調システムとEC関係の出願率は
全体の76%を占める。
 空調システム：CY20比5倍(538%)、CY21比3倍(333%)
 EC：CY20比4倍(381%)、CY21比3倍(265%)

5. 品質強化活動

サンデンは、社是に示す『顧客のためになるよい製品』を提供しつづけるため、2023年を“品質元年”と制定し、改めて品質強化活動に取り組んでいます

社是

Management Principles

一、顧客のためになるよい製品を作ります

Satisfy our customers needs with high quality products.

一、仕事を通じて

社会福祉と文化の向上に寄与します

Contribute to the social and cultural improvement of the community through business activity.

一、自己啓発につとめ

誇り高き会社の建設に努力します

Build a company of which all are proud, through the effort of self-motivated employees.



主な品質賞受賞歴

- 1998年 全社的品質管理を評価する「デミング賞賞」を受賞
- 2002年 「日本品質管理賞」受賞
- 2003年 「TPMワールドクラス賞」受賞
- 2006年 サンデン・インターナショナル・USA、サンデン・インターナショナル・シンガポールが「デミング賞賞」受賞
- 2011年 サンデン・ピーカス（インド）が「デミング賞」受賞

2023年 第3四半期にいただいた主な品質賞

日立建機ティエラ様より
TOP3である
“品質パワーアップ賞”を受賞



キャタピラー様より
品質の最高評価である
“エクセレント賞”を受賞



6. サステナブルな社会の実現に対する取り組み

■ 当社グループの温室効果ガス（GHG）排出量削減目標がSBT認証を取得

当社グループが設定する2030年度までの温室効果ガス（GHG）排出量削減目標について、SBTi「Science Based Targets initiative」より科学的な根拠に基づいた短期目標として認定されました。



■ SBTに認証された当社グループの温室効果ガス（GHG）削減目標

Scope1・2	2019年を基準として2030年までに80.04%削減
Scope2	再生可能エネルギーの年間調達量を 2019 年の 0.2%から 2030 年までに 100%
Scope3	2019 年を基準として 2030 年までに 27.5%削減

■ サンデンフォレストが環境省「自然共生サイト」に認定

「自然共生サイト」とは、国が認定する「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」のことで、日本で初めてこの認定制度が実施されました。2030年までに日本の陸域/海域の少なくとも30%を保全・保護する目標（30by30）を達成する活動「生物多様性のための30by30アライアンス」に、2022年4月より参加しています。



サンデンフォレスト

目次

成長に向けた活動の進捗

1. 事業再生計画の進捗
2. 成長に向けた好循環サイクルの実現
3. 主要新規案件獲得に伴う生産対応
4. 技術開発 将来成長に向けた取り組み
5. 品質強化活動
6. サステナブルな社会の実現に対する取り組み

2023年 12月期 第3四半期 決算実績

1. 決算のポイント
2. 連結決算要約
3. 自動車機器セグメント地域別売上高
4. 営業利益増減分析（前年差異）
5. キャッシュフロー（前年差異）
6. 連結貸借対照表（前年差異）

1. 決算のポイント

1 売上高は、前年同期比 37億円の増収(+2.9%)。為替影響を除くと26億円の減収(▲0.2%)。為替影響を除く実質面では、自動車機器事業で11億円の減収。欧州は一部車種の商権終息がある一方、トラック向け含めたOEM向けが好調で6億円増収も、他地域で減収。また、前年のシステム系子会社売却を主因に、その他事業で15億円の減収。

2 営業利益は、前年同期比 9億円の減益。減収、及び販売商品構成の悪化を、原価低減や生産性の向上を始めとした改善施策に加え、為替差益でカバーしましたが、中長期を見据えた積極的な成長開発投資により減益となりました。具体的には、開発費用が前年同期比+17億円で、昨年同様の投資額の場合、営業利益は前年同期比+8億円となっていた見込み。また、長期債権の一部回収による引当金の戻し等が寄与し、当期純利益は7億円の増益。

3 営業キャッシュフローは、前年同期比+126億円の増加による黒字化。主因は、混乱が続いていたサプライチェーンの立て直しによる在庫削減や売掛金の回収早期化が寄与し、運転資金の効率化による大幅改善。欧州を中心とした顧客、部品メーカー双方の半導体不足は緩和傾向だが、一部継続の見通しがあり、引き続き、きめの細かいコントロールを実施。

2. 連結決算要約

[単位：億円]

項目	2022年度 2022年1月～9月	2023年度 2023年1月～9月	対前年同期		2022年度 2022年 7月～9月	2023年度 2023年 7月～9月	対前年同期		
			差異	増減率			差異	増減率	
売上高	1,280	1,317	37	2.9%	456	442	△14	△3.1%	
営業利益	△55	△64	△9	△16.7%	△20	△20	0	1.8%	
経常利益	△29	△22	7	24.3%	△13	△12	1	9.6%	
親会社株式に帰属する当期純利益	△25	△18	7	29.0%	△6	△15	△9	△145%	
為替	US\$	128円	138円	10円		138円	144円	6円	
	EUR	136円	149円	14円		139円	157円	18円	

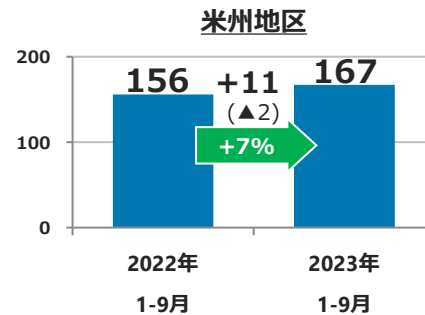
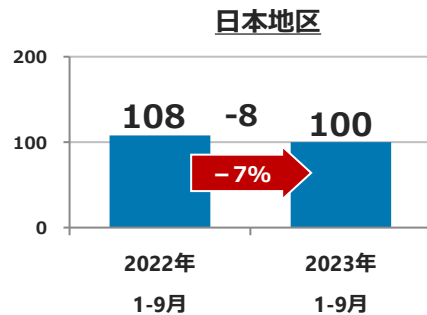
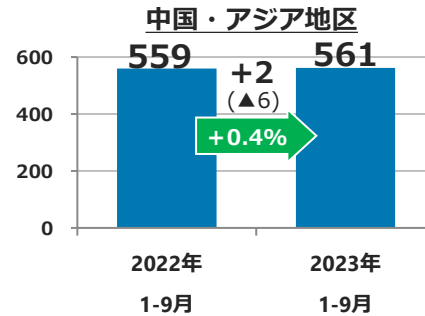
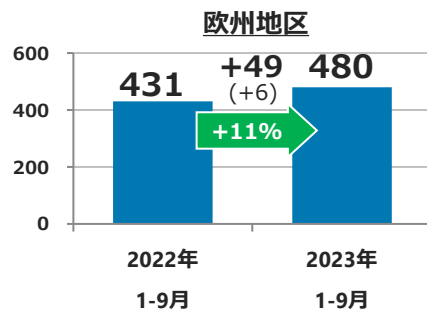
*為替レート：市場平均レート

3. 自動車機器セグメント 地域別売上高

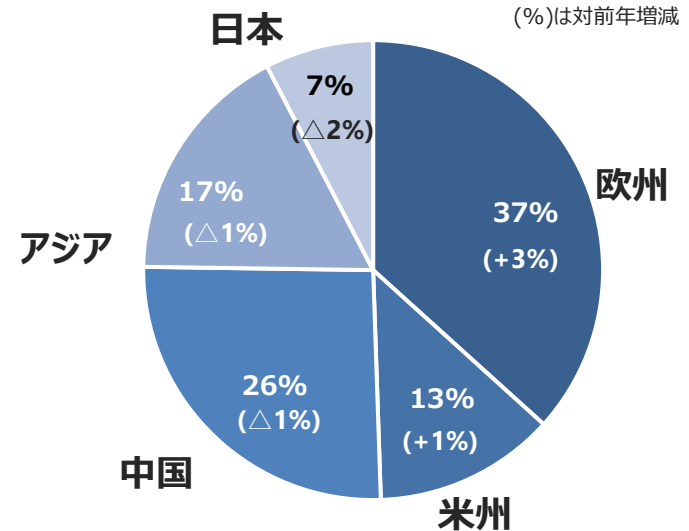
売上高 1,308億円 +53億円 (前年比+4%)

(為替影響+64除き ▲11)

■ 地域別売上高 [単位：億円]



■ 構成

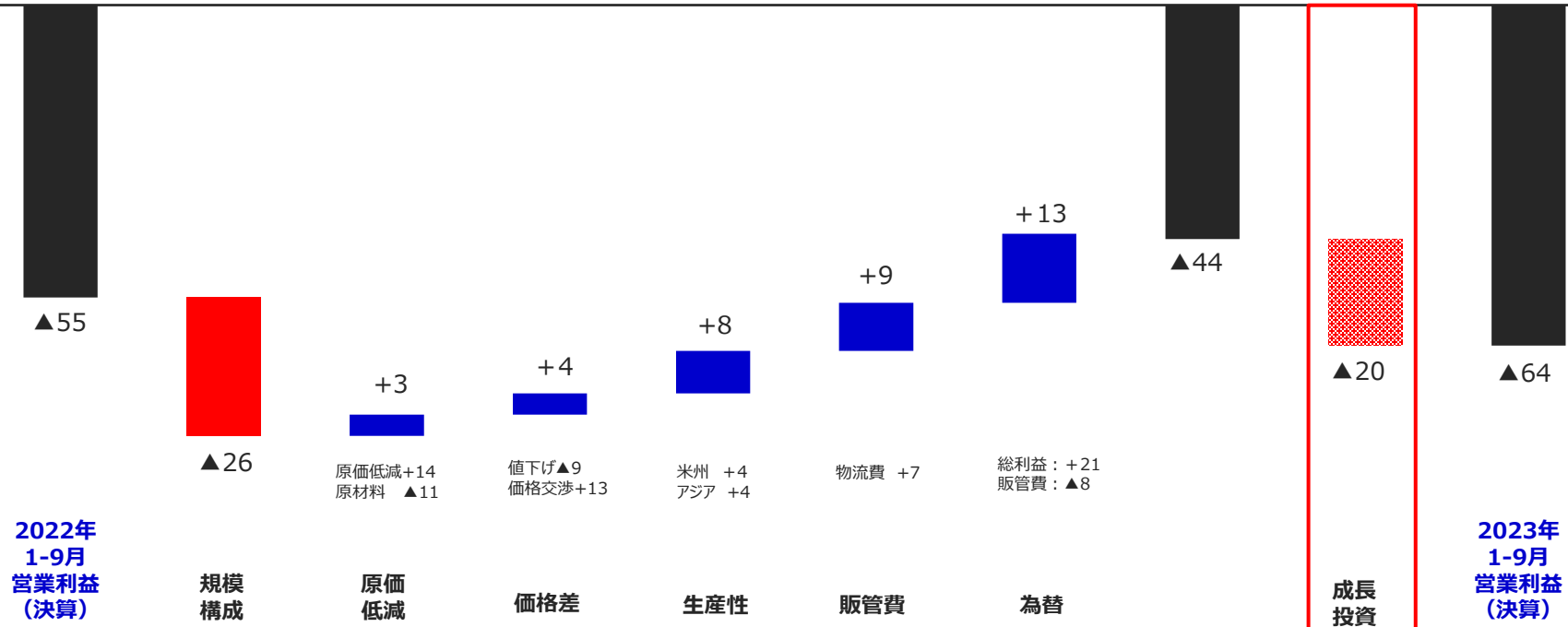


4. 営業利益増減分析（前年差異）

前年(22年1-9月)比較

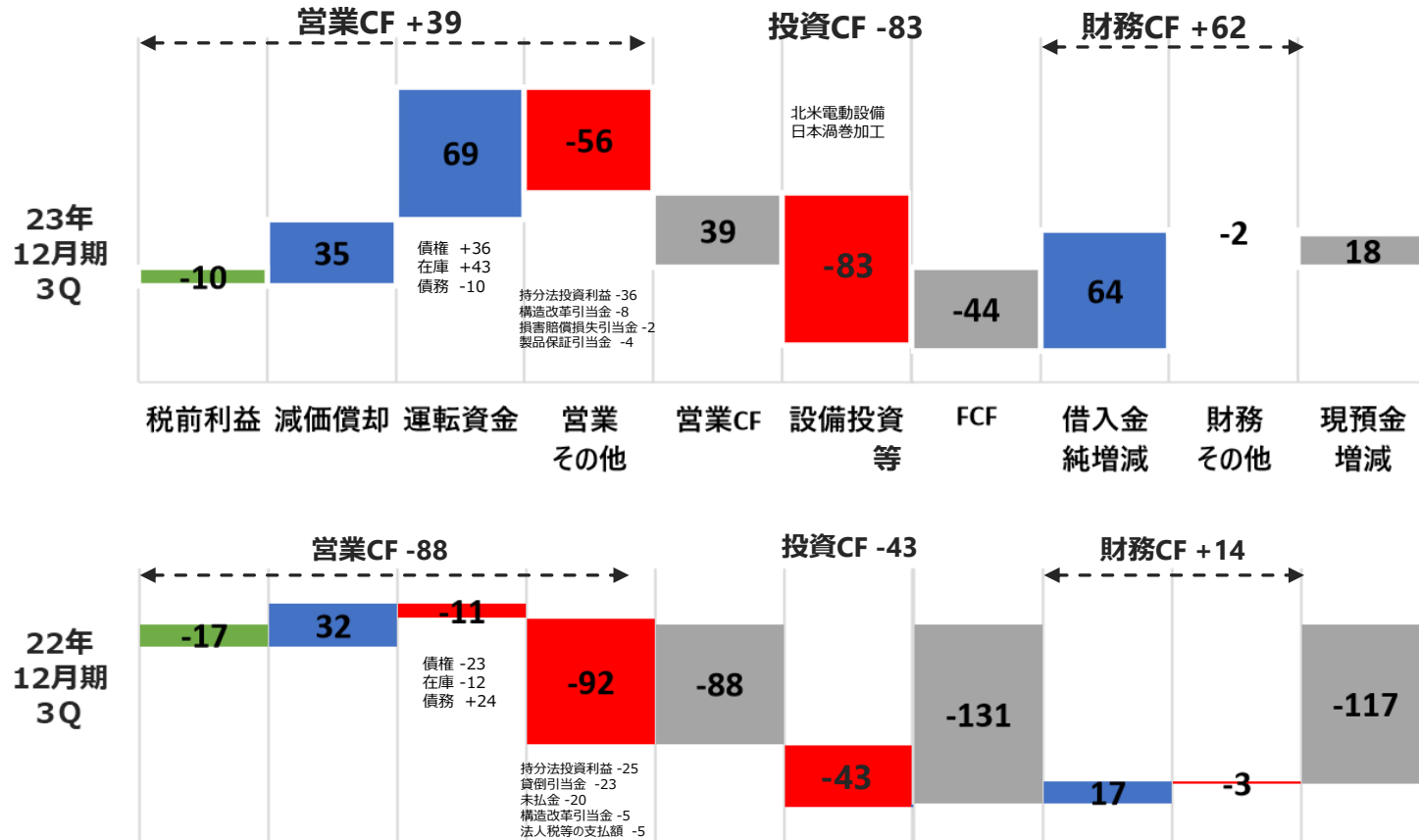
	前年	当年	差異
売上高	1,280	1,317	+37
営業利益	-55	-64	-9

- 電動コンブ製品の年次値下げ及び、構成悪化(AFM向け減 ECモデル入替) による収益力悪化。
- 価格交渉により材料高騰影響吸収し、併せて原価低減を加速。
- 物流費等販管費の削減も、R&D費用等、成長に不可欠な人材への継続的な成長投資実施。



5. キャッシュフロー（前年差異）

[単位：億円]



■ 営業CF：黒字化
→CCC短縮

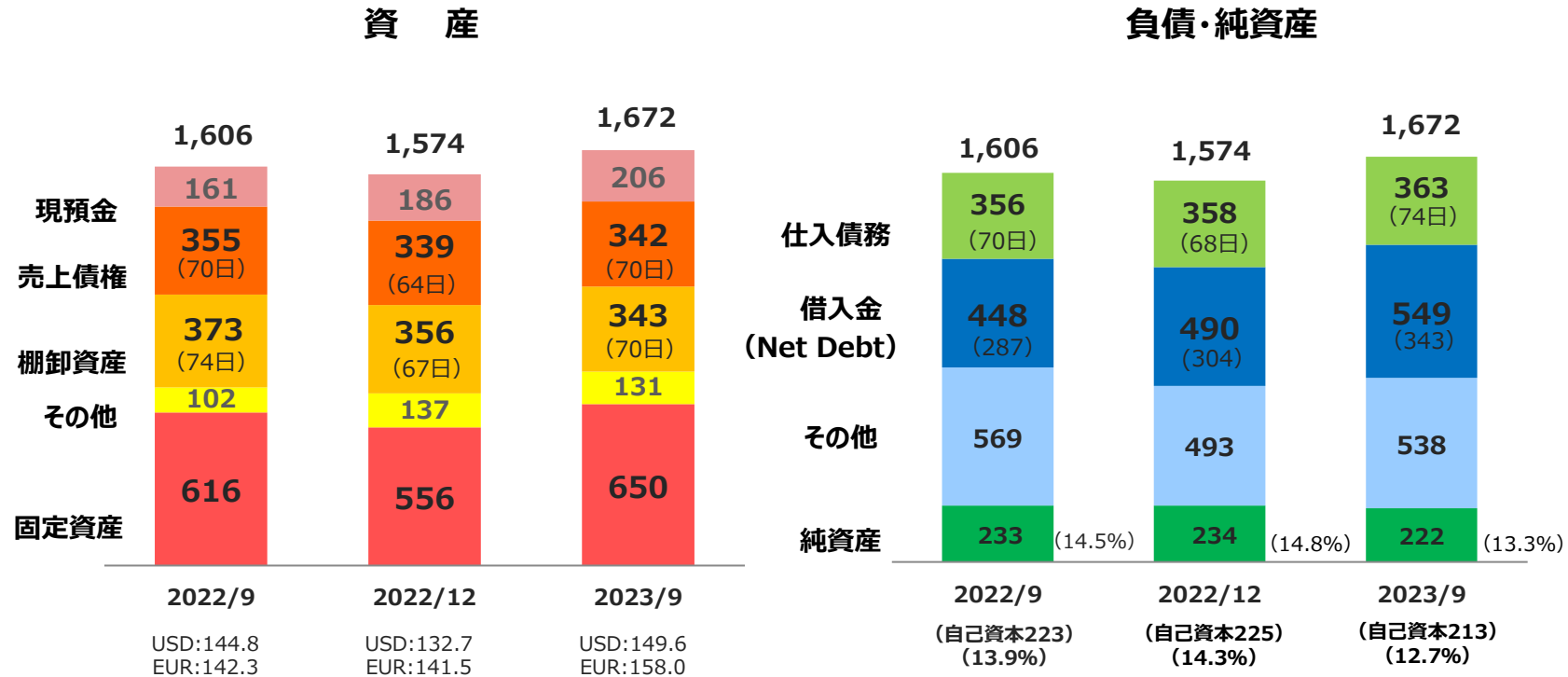
■ 投資CF：積極化
→電動工°設備

■ 財務CF：外部調達
→手元流動性維持

6. 連結貸借対照表（前年差異）

*日数：期末残高／(直近3ヶ月の売上高/90)

[単位：億円]



Team Work Build for
100+ year Company



当社は、2023年7月30日 創立80周年を迎えました。
今年、われわれは“One Team, One Sanden” 一丸となって新たな出発点に立ちます。
顧客のためになる良い製品を作り、100年以上続く国際企業として再出発します。

ご質問・お問い合わせは Mail :sdhd.prcsr.jp@g-sanden.comまでお願いいたします。